

第3回奥州市民☆文士劇「銭形平次」

1月から2月にかけて、市内の3つの市民劇場公演が行われました。ここでは、「第3回奥州市民☆文士劇」と、10回目の節目となった「奥州前沢劇場」の様子を、写真で振り返ります。

(2月28日に行われた奥州胆沢劇場は、広報おうしゅう4月号で詳しくご紹介します)

第3回奥州市民☆文士劇「銭形平次」(同実行委員会主催)は1月23日と24日、計3回の公演を行いました。合わせて1650人の観客が鑑賞し、市民劇と文士劇の融合を目指した、笑いと感動の舞台を楽しみました。

今回の脚本は岩手が生んだ大作家・野村胡堂原作の「銭形平次」。江戸一番の十手持ち平次が、江刺村と江戸で起こった2つの事件をひもとくとき、見事に解決していくというストーリーです。江刺ゆかりの作家・高橋克彦さんなど数々の文化人と共に、今回もたくさんの市民が出演しました。観客はキャスト39人を含む、約160人がつくり上げた痛快人情劇に、盛大な拍手を送っていました。



「事件だ！いくぞハチ」「へい、親分！」



今回もたくさんの市民が登場



岩谷堂高出身の桂枝太郎さんも出演



3公演ともほぼ満席の来場者



メロディジャックスによる生演奏



平次の名推理が光り、今回の意外な黒幕をひっそらえ、一件落着

第10回奥州前沢劇場「子育てごっこ」

名作を感動の舞台で再現

第10回奥州前沢劇場公演「子育てごっこ」(同実行委員会主催)は2月21日、前沢ふれあいセンターで行われ、昼の部と夜の部、2公演合計1200人を超える観客が訪れました。

10回目となる今回の原作は前沢出身の作家、故・三好京三氏の直木賞作品「子育てごっこ」。衣川小・大森分校を舞台に繰り広げられる笑いあり涙ありの人情物語に取り組みました。約2カ月余りの厳しいいけいこを乗り越えたキャスト27人と、大道具や小道具、美術をはじめとしたスタッフら計120人による約2時間半の手づくりの感動舞台に、観客は惜しみのない拍手を送っていました。来場者数も過去最高を記録するなど、名実ともに、第10回という節目にふさわしい公演となりました。



夕日が美しい感動のクライマックスシーン



参加者全員が手を取り、気合を入れる



公演後感動の涙を流すキャスト



大森神楽に取り組んだ子役のみんな



舞台を笑いで盛り上げた衣川探偵団



大森分校に“無教育”のユミがやってきた